

第三段階 初期ユダヤ教宣教

D. イエスはユダヤで弟子を作り続ける

1. ユダヤにおけるイエスの4か月間の弟子育成 (#041)

ヨハネ3:22-24 4.1-2

22 過越祭の後、イエスは弟子たちとユダヤの地方へ出かけ、そこで弟子たちと一緒に過ごしながら、引き続き浸礼を続けておられた。

23 ヨハネもサリムの近くのアイノンでバプテスマを施していた。そこには水が豊富にあったし、人々は彼のところにやって来てバプテスマを受けていたからである。24 これはヨハネが牢に入れられる前のことであった。

4.1さて、イエスは、パリサイ人たちが、イエスがヨハネよりも多くの弟子を集めてバプテスマを施していると聞いていたことを知った。2 実際には、バプテスマを施していたのはイエスではなく、弟子たちであった。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルーク =^L、ジョン =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。** 旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ヨルダン川西岸のユダヤ地方
タイムライン	西暦30年4月から7月（3か月目から6か月目）
イエスの生涯	ステージ III: 初期ユダヤ教宣教
	D. イエスはユダヤで弟子を作り続ける
タイトル	の4か月間の弟子作りの概要

コメント :

第三段階 初期ユダヤ教宣教

これらの短い節は、4月(過ぎ越しの祭りの後)から7月下旬または8月中旬まで、ヨルダン川の西側にあるユダヤ地方の田舎でイエスが行った宣教活動を描写しています。イエスは個人への宣教に引き続き重点を置きました。この数か月間、イエスは洗礼者ヨハネと緊密に連携して働き、ヨハネは絶えずイエスのもとに求道者を導きました。

この期間にイエスの宣教活動が拡大していたことは、イエスが「ヨハネよりも多くの弟子を集め、弟子に仕えていた」という事実からわかります。(4.1) 弟子を作る最初の輝かしい週に私たちが気づいた増殖のプロセスは、イエスが人目につかない場所で宣教活動を行っていたにもかかわらず、拡大し続けていました。ヨハネが「最初の輝かしい週」の間に描写したような場面が絶えず繰り返されていた想像すると、この4か月間の宣教活動で何が起こっていたかがよくわかります。

ヨハネは、この時期に奇跡が起こったとは書いていないことに注意すべきです。奇跡が何も起こらなかつたという意味ではありませんが、後のガリラヤでの宣教のときのように、この時期のイエスの働きの主たる特徴は癒しの宣教ではなかったことを示しています。ユダヤの田舎でのイエスの時間は、個人的な伝道と弟子訓練に費やされました。これから、イエスが弟子を作るこの2つの相互に関連する訓練をどのように遂行したかを見ていきます。

イエスはすべての人を公平かつ無条件に愛しました。そのため、イエスは一人ひとりに証ししようとした。イエスは「父から遣わされた」証人であり、証人チーム「私たち」のリーダーとしての立場を真剣に受け止めました。ヨハネは、イエスが誰とでも、そしてできる限り誰とでも個人的に証しをしたことを見ています。イエスは誰でも近づくことができました。イエスはどんな罪人でも受け入れました。イエスのもとに来れば、イエスが仲間として迎え入れてくれることが分かりました。そのため、求道者(ニコデモなど)はイエスを探し求めました。

イエスは個人伝道に熱心だっただけでなく、創造的でした。証しは一人ひとり、一人ひとりに対してそれぞれ異なっていました。ここでは、決まりきった証言のアウトラインはありません。イエスは、自分なりの「四つの靈的法則」をさっと取り出して、それをそのまま伝えるようなことは決してしませんでした。すべての人は独自の個人であり、イエスの唯一無二の創造物であるため、イエスは各人に最も適切な方法で福音を伝えました。

これは、私たちが伝道するときに、一貫した福音の要約や小冊子を使うことが間違っているという意味ではありません。伝道の道具や重要な聖書の箇所は問題ありません。大切なのは、伝道する相手一人一人に心から愛をもって接し、その人のユニークな人生の物語を理解しようとすることです。なぜなら、彼らは私たちの主のかけがえのない創造物だからです。それは私たちの態度の問題であり、単に情報を与えることではないのです。

イエスが個人伝道に尽力したということは、イエスがたくさんの種を蒔いたことを意味しました。ヨハネは、この宣教期間の説明を、イエスの次の言葉で締めくくっています。「**目を上げて、収穫を待っている畑を見なさい。**」4.35B この収穫はどれほど豊かだったでしょうか。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

ヨハネ 3.22-4.1 は、イエスがヨハネのバプテスマよりも多くの人々を救世主として信仰に改宗させていたことを指摘しています。これは決して小さな発言ではありません。ヨハネは力強い説教者であり、聖地中から毎日大勢の人々が彼の話を聞きに来していました。イエスは、大勢の人々に説教して改宗させた力強い説教者よりも、個人的な伝道を通して多くの人々に伝道しました。そのため、ヨハネ 3.22 では、イエスはヨハネよりも「バプテスマを施し続けた」と述べられています(4.1 を参照)。

そこで、イエスを信じる新たな信仰の証として、浸礼を受ける新しい信者が続々と現れました。イエスはその後、これらの新しい信者に何をされたのでしょうか。ヨハネは、イエスが「弟子たちと時間を過ごしていた」と書いています。この一見単純な説明が実際に何を意味するのか、もう少し深く掘り下げてみましょう。

のイエスの宣教活動の描写を、いわゆる「最初の栄光の週」の日々の記述から始めたことを思い出してください。イエスを信じた最初の二人の弟子は、「イエスが」来なさい(私と一緒にいなさい)、そうすれば(私が誰であるか)わかるでしょう」と約束したので信じました。

に、二人はイエスを信じるようになり、その後もイエスと共に「留まり続けました」。この最初の例により、イエスとの交わり、つまりイエスと共に時間を過ごすことが、イエスの弟子としての生き方の基本原則として確立されました。ヨハネはユダヤでの4ヶ月を描写する際に、継続的な行動を表す時制を使用しました。「イエスは彼らと共に時間を過ごしておられた。」それは継続的なプロセスであり、彼と彼らの日々の生き方でした。

約1年後、イエスがガリラヤで十二使徒を選んだとき、マルコはこう書いています。「そして、イエスは十二人を任命し、彼らをご自分と一緒に留まらせ、また宣教に遣わそうとされた。」3.14 これらの使徒たちは、その後の18ヶ月間、数週間を宣教に費やし、毎日10時間から15時間をイエスと共に過ごしました。イエスと共に時間を過ごすことは、弟子関係の最も基本的な原則でした。

結局、イエスは肉体での宣教を終える際に、弟子たちに新たな命令を下しました。「わたしにとどまりなさい。わたしの存在と愛のうちに永遠に住みなさい。」ヨハネ15:1-16 イエスは、聖霊の宣教を通して、将来の弟子たちすべてに「わたしと一緒に時間を過ごす」というライフスタイルを通常の生き方として命じていたのです。

と神との永遠の関係の本質を描いたものです。実際、イエスは警告しました。「わたしを離れては、あなたがたは何事もすることができない。」ヨハネ15:6 絶えず神に依存し、神の靈を通して神の御前に意識的に住まうことなしには、神との関係において他の何ものも行うことはできません。

イエスが肉体を持っていた時代には、イエスと「一緒に時間を過ごす」ことは、イエスの肉體的な存在によって制限されていました。しかし、今では、イエスの靈が私たちとともに永遠に住まわれることによって、空間と時間の壁は打ち碎かれ、今日、信者はだれでも、イエスの絶え間ない存在、途切れることのない交わりの中で、自分の居場所を定めることができます。これは、ユダヤの山岳地帯での数か月

第三段階 初期ユダヤ教宣教

間、イエスが弟子たちとの交わりを優先していた様子を謎めいた形で描写することで、ヨハネが指摘していましたことです。

クリスチャン生活とは、本質的にはイエスと共に過ごし、常にイエスの御前に居を構え、イエスについて学ぶことです。私たちは従順な奴隸、そして貪欲な学習者の姿勢でこれを行います。イエスの御言葉と御靈がこれを可能にします。どちらもイエスの御前に留まるために等しく必要です。イエスの生き生きとした輝かしい個性の力によって私たちをイエスのようになることがイエスの弟子としての計画であり、イエスの痕跡を残し、それによって時とともに私たちを変えていくのです。

私たちは、史上最高の伝道師の御前に留まり」」ます。主が私たちをご自身のようになるよう変えてくださる度合いに応じて、私たちは主のイメージに似たライフスタイルの伝道師になります。私たちは絶えず証言します。そうすることが義務だからではなく、主の御前で見聞きしたすべてのことの純粋な善良さと偉大さを讃えるのをやめられないからです。主は私たち一人一人を、主の証人チームのメンバーとして登録してくださいました。

イエスの個人的な伝道の例、そして初期のユダヤ教宣教において常に新しい信者をイエスのもとに連れてきたことは重要です。新しい信者を浸礼した例も同様です。イエスが浸礼を実践した方法を説明した[PDF ノートにアクセスしてください。これも無視すべき重要な例です。](#)

応用：

学者の中には、「初期ユダヤ教宣教」を「無名の年」と呼ぶ人もいます。イエスの宣教活動の期間の中で、この時期に関する福音書の内容が他のどの時期よりも少ないので事実です。「無名」という言葉は適切です。

同時に、イエスはユダヤでガリラヤでの宣教活動の爆発的な成長の基盤をしっかりと築きました。個人伝道と弟子訓練は、その後のガリラヤでの大規模な伝道活動と広範囲にわたる治癒/悪魔祓い活動を支える基盤であり続けました。大工/石工として、イエスは建築の名人でした。ユダヤの田舎で過ごした数か月の間に、イエスは救世主としての働きの完璧な基盤を築きました。

イエスの親密な存在に留まり、個人的な伝道を行うことは、今日のすべての信者の奉仕の共通の基礎です。何も変わっていません。私たちはそれぞれ異なる霊的賜物と奉仕を持っていましたが、神の御前に生き、証しするという召命は皆同じです。

これらの訓練に関して、あなたは具体的にどのような計画を立てていますか？イエスの模範にもっと完全に従うために、何を調整する必要がありますか？このことについて誰と話し合えますか？いつから始めますか？